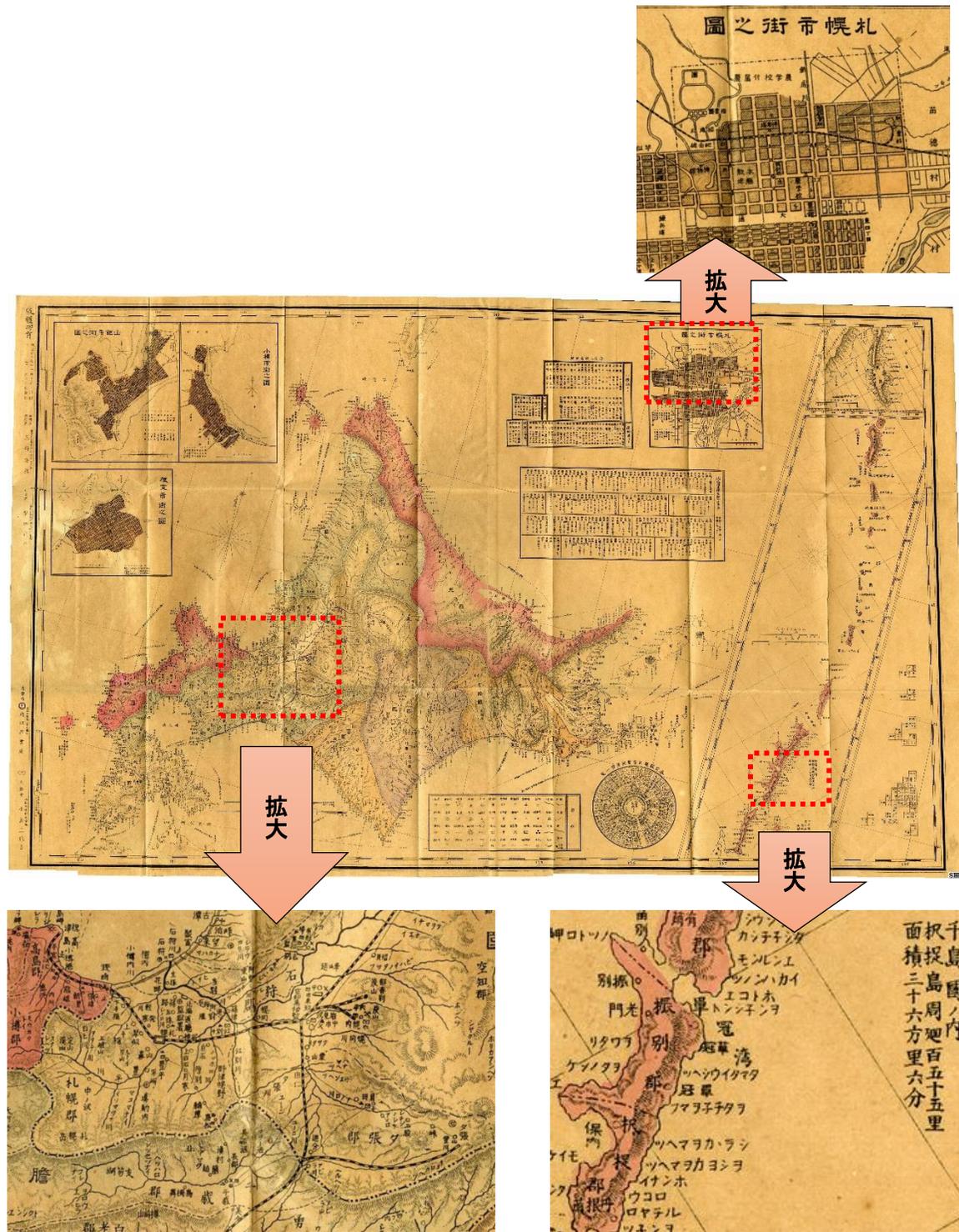


明治時代の北海道地図



1895年(明治28)「実測北海道全図」

松田三左衛門家文書(当館蔵) [デジタルアーカイブへ](#)

解説

1869年(明治2)の箱館戦争終結後、政府は蝦夷地開発のため7月8日に開拓使を設置しました。8月15日に蝦夷地を**北海道**と改称し11か国(石狩国、十勝国など)86郡に分けました。開拓使はアメリカ人顧問団の助言を得て開拓事業に着手しましたが、1882年(明治15)2月8日に廃止されました。代わって札幌・函館・根室の3県が設置されましたが、3県に分治は開拓の推進に適さなかったため、1886年(明治19)北海道庁が置かれて千島列島を含む北海道全域を管轄することになります。

政府の北海道開拓事業の推進や積極的な移民招致策により、明治期～昭和戦前期に人口が大量に北海道に流入し、農耕地の拡大とともに鉱産・水産・林産資源の開発が進むこととなります。

福井とのかかわり

福井県は、明治前期から県外への人口流出が全国的にも多い県でした。1920年(大正9)の第1回国勢調査から、福井県生まれの人の現住県をみると、2割をこえる人が県外に住んでいます(全国第5位の流出率)。流出先はこの時点では北海道がもっとも多く、大阪・東京・京都の3大都市をしのぐ4万7千人もの福井県人が移住しています。

このなかには、同郷人がまとまって移住する団体移住がふくまれていました。三石郡歌笛村へは大野郡を中心に入植し、明治30年末には100戸におよぶ「越前村落」をつくっていました。坂井郡磯部村、南条郡神山村なども、空知郡栗沢村、天塩郡遠別原野などへ団体移住しています。

資料の注目ポイント

資料は1895年(明治28)発行の地図です。当時の北海道は石狩国や十勝国など11か国86郡で構成されており、地図上でも国ごとに色分けされて描かれています。11か国には、1875年(明治8)にロシアと締結された**樺太・千島交換条約**で日本領として確定した千島列島(千島国)も含まれています。

山・川・池などの自然地形はもちろん、道路や鉄道など交通に関する情報も豊富です。鉄道は幌内・空知・夕張の炭鉱地から港へ伸びていることがわかります。

地図には札幌・小樽・函館・根室の市街図や小樽・函館港より本州各地の港までの海里も記載されていて、敦賀港までの海里はそれぞれ570海里(約1056km)、439海里(約813km)となっています。

関連資料

名称	概要	備考
「実測北海道全図」	松田三左衛門家文書（当館蔵） A0169-02299	デジタルアーカイブ福井で閲覧可能。 https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=011-326846-1-p1
『北海道移住手引草』	北海道庁殖民部拓殖課、編。北海道の地図および渡航案内図。入植の手続きや運賃、気温、農作物の播種収穫季節表なども掲載。福井県立博物館所蔵。	『図説福井県史』近代 13 北海道移住 掲載 https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/fukui/07/zusetsu/zusetsuframe.html
福井県からの北海道移住者数（1885～1940年）	1885～1940年の福井から北海道への移住者を表わした折れ線グラフ	
福井県からの主な団体移住地	福井県から北海道への主な団体移住地を示した略図	
コラム#ふくい記憶に会う 「意外なところにふくいの資料—映画・雑誌・お菓子まで! ?—」	「実測北海道全図」を紹介。	当館WEBで公開中。 https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/bunsho/category/column/30693.html
ミニ展示「映画『ゴールデンカムイ』で使われた地図資料」	「実測北海道全図」を展示。 令和6年2月23日（金）～4月7日（日）	当館WEBで公開中。 https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/bunsho/category/tenji/30741.html



参考文献

- ・『国史大辞典』 吉川弘文館
- ・『図説福井県史』 近代 13 北海道移住